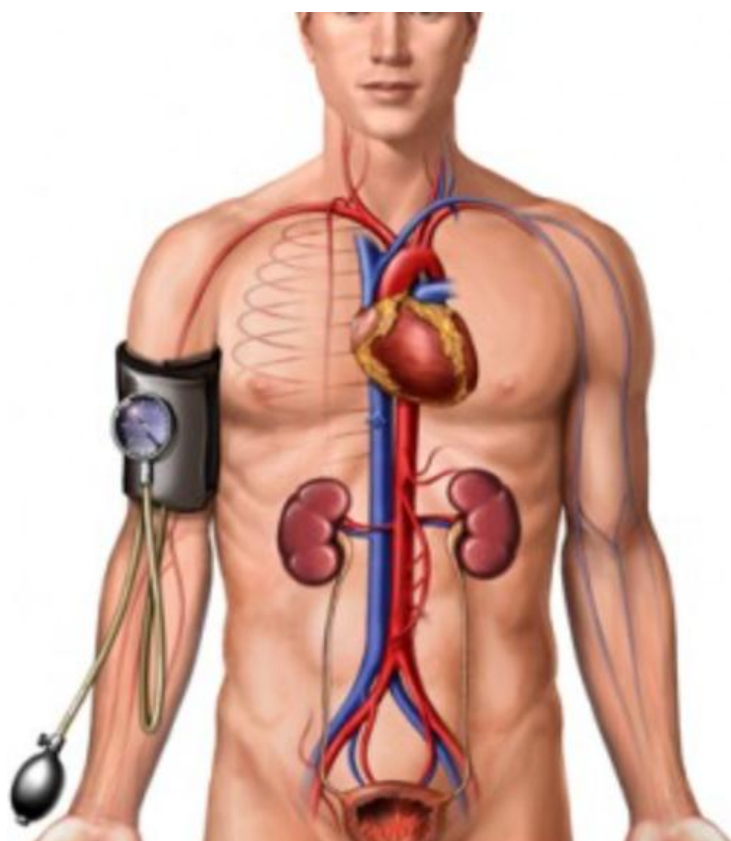


# 新しい高血圧治療薬 「エサキセレノン」について

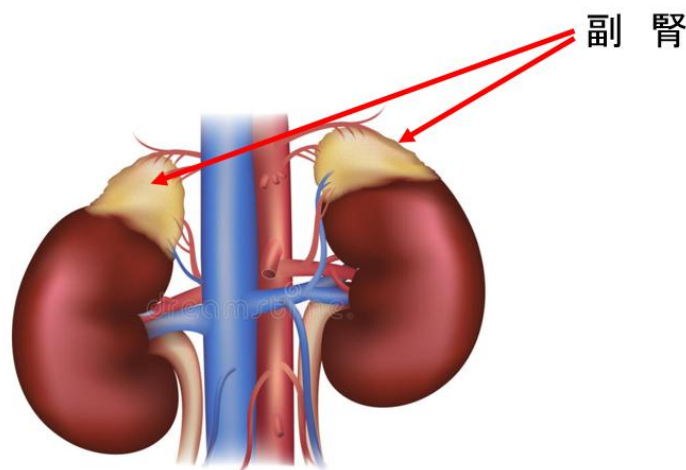
第一三共（株）は、アルドステロン受容体（ミネラルコルチコイド受容体）を選択的に阻害する薬剤「エサキセレノン（CS-3150）」について、高血圧症治療薬として厚生労働省に製造販売承認申請を行ったと発表しました。



本態性高血圧症患者約1000例を対象に実施した国内第3相臨床試験（P3、ESAX-HTN試験）では、同じ作用機序を持つ既存薬エプレレノン（ファイザーの「セララ錠」）と比較し、同剤に対する降圧効果の非劣性が確認しております。



アルドステロンは、副腎皮質から分泌されるステロイドホルモンの1つであり、腎臓に作用してナトリウムや水の再吸収を促進することで、体液量を増加させ血圧を上昇させます。「エサキセシノン」は、そのアルドステロンの作用を阻害することで、降圧作用を発揮します。また最近では、アルドステロンが心臓、血管、腎臓などの臓器障害に関与していることが明らかになり、これら臓器に対する保護作用も期待されています。



アルドステロン受容体に対する阻害作用を有する薬剤としては、従来から、カリウム保持性利尿薬のスピロノラクトン（商品名：アルダクトンAほか）が使用されていますが、受容体選択性が低く、同じステロイドホルモンであるプロゲステロンの受容体をもブロックしてしまうため、内分泌・性腺系の副作用（女性化乳房、月経異常など）が起こることが知られています。これに対して「エサキセレノン」は、アルドステロン受容体への選択性が高いため、こうした副作用の発現頻度が低いと考えられています。



「エサキセレノン」は、アルドステロンに直接作用するため、糖尿病性腎症や腎障害のある患者さんでは、高カリウム血症を引き起こす点に十分な注意が必要です。

